

## 資料2-2-2 陸上施設関連

### 資料2-2-2-1 研究会

●海洋研究所（中野）[1990.4～2010.3]

\*『東京大学海洋研究所30年史』未掲載の1990・1991年度のデータも含めた

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
1990. 5.29～ 5.30	フィリピン海とその周辺海域の地球科学—ODPの掘削をおえて	藤岡 換太郎	127
1990. 5.31～ 6. 1	遺伝子操作生物の天然への放出に関する研究会	木 暮 一 啓	185
1990. 6. 8	東京湾の物質輸送過程	柳 哲 雄	40
1990. 7. 3	浮魚類の再生産機構と環境の役割	青 木 一 郎	70
1990. 8.21～ 8. 22	浅海底ベントスの種間関係および群集生態	玉 置 昭 夫	76
1990. 9. 5	ODP日本海ワークショップ	玉 木 賢 策	28
1990. 9. 7	深海ステーション	瀬 川 爾 朗	198
1990.10. 8	海中無人調査計測機シンポジウム（第7回海中海底工学フォーラム）	浦 環	80
1990.10.25～10.26	深海における発光現象の解析	大和田 紘 一	57
1990.11. 9	海藻研究における最近の進歩	横 浜 康 継	65
1990.11.13～11.15	地球の過去の緩急変動リズムと綫状構造	伊 東 敬 祐	62
1990.12.10～12.11	底生無脊椎動物の幼生の親個体群への加入過程——分布、着底、定着および加入	関 口 秀 夫	64
1990.12.12～12.13	数値シミュレーション・数理的手法を主とした地球内部ダイナミクスの研究	藤 本 博 己	58
1990.12.21	海洋における物質循環と地球環境	野 崎 義 行	69
1990.12.25	流れの構造と水産動植物の分布と移動の研究	河 合 英 夫	35
1991. 1.11	人工衛星による海面リモートセンシングの現状と将来展望	福 島 甫	40
1991. 1.22～ 1.23	海洋底地球科学最近の進歩	小 林 和 男	110
1991. 1.24～ 1.25	海底ケーブルの地球科学的利用	笠 原 順 三	90
1991. 6. 5	遺伝子情報をもとにした自然生態系の解析	木 暮 一 啓	52
1991. 7.11～ 7.12	オーシャンフラックス——地球圏・生物圏におけるその役割	野 崎 義 行	200
1991. 9. 2～ 9. 3	魚類内分泌学ワークショップ	金 子 豊 二	160
1991.10. 7	海中無人調査計測機シンポジウム	浦 環	132
1991.11.25～11.26	海洋性島弧の発達史と背弧拡大——伊豆・小笠原弧の最近の地球科学	藤 岡 換太郎	93
1991.11.27～11.28	深海底調査研究の現状と将来	末 廣 潔	83
1991.12. 9	生物の分布・成長の解析のための流れの測定法	社 多 哲	72
1991.12.10	沿岸漁業資源培養と海洋循環	坂 本 亘	59
1991.12.12	三浦・房総半島とその周辺海域の地球科学	蟹 江 康 光	44
1991.12.16	浮魚資源の再生産と加入機構	青 木 一 郎	74
1992. 1.16～ 1.17	大陸・海洋境界域の電磁気現象	瀬 川 爾 朗	44
1992. 1.23	海洋生命科学における実験生物	森 沢 正 昭	47
1992. 1.24	海洋生物の系統保存とジーンバンク	嵯 峨 直 恒	42
1992. 2.22	気候変動が海洋生態系の変動に及ぼす影響のダイナミクス	杉 本 隆 成	98
1992. 3.16～ 3.17	大気海洋相互作用に関するシンポジウム	鳥 羽 良 明	70
1992. 3.18	相模湾およびその周辺域のサイモテクトニクス	徳 山 英 一	71
1992. 3.23	Inter Ridge（国際海嶺研究計画）シンポジウム	藤 本 博 己	50
1992. 3.24	ワークショップ——太平洋の地質・地球物理と深海掘削	西 村 昭	45
1992. 3.26～ 3.27	地球ダイナミクスと海洋ダイナミクス	瀬 川 爾 朗	52
1992. 4.22～ 4.23	高圧生物化学——水溶液から深海生物まで	谷 口 吉 弘	42
1992. 7.24	東京湾から外洋への物資輸送——東京湾口の沈降粒子のキャラクタリゼーション	柳 哲 雄	40
1992. 7.31	活動的海洋底と生命の進化	柳 川 弘 志	48
1992.10. 5	海中無人調査計測機シンポジウム	前 田 久 明	173
1992.10. 6	暖水塊の物理・化学・生物過程——ストリーマーの構造と機能を中心に	遠 藤 宣 成	32

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
1992.11. 4	種を考える——ホヤでのアプローチ	中内光昭	39
1992.11.24～11.25	中部熱帯太平洋の生物生産	寺崎誠	75
1992.12. 3	海洋学へのCG・GIS技術の効果的利用	斉藤誠一	54
1992.12. 8	海洋生態系の変動機構——GLOBECの重要課題と方法	杉本隆成	67
1992.12.17～12.18	分子生物学的アプローチによる水産生物の系統と進化	沼知健一	162
1992.12.21～12.22	相模湾周辺の地球科学およびシロウリガイ属コミュニティ	蟹江康光	64
1992.12.24～12.25	幼生分散と流れ——海産ベントス個体群の存続機構	向井宏	106
1993. 1.12	地球環境と微生物生態——物質環境研究への新しいアプローチ	加藤憲二	43
1993. 1.18～1.19	わが国における古海洋学研究の現状	大場忠道	60
1993. 2. 5	大洋中央海嶺系研究ワークショップ	藤井敏嗣	44
1993. 2. 8	測地学と地球環境	瀬川爾朗	28
1993. 3. 4	南西太平洋の地球化学	野崎義行	16
1993. 3.23～3.24	大洋底のグローバルダイナミクス——我々はどこまで理解したか	小林和男	180
1993. 5.13～5.14	海洋生物における硬組織研究の新しい展開	大越健嗣	68
1993. 6. 2～6. 3	東北日本横断テクトニクス	堀田宏	97
1993. 8. 2	水生動物の行動と神経系	宗宮弘明	48
1993. 8.30	マグロ類の分類・生態・資源	中村泉	62
1993. 8.31	GLOBECのための新しい生物観測手法	青木一郎	51
1993. 9.20～9.21	無脊椎動物のホルモン——構造と作用	長澤寛道	103
1993. 9.29～9.30	ウナギの生物学と白鳳丸研究航海の展望について	大竹二雄	85
1993.10.12	海中無人調査計測機シンポジウム	前田久明	184
1993.11.11～11.12	火山活動と地殻応力場	小山真人	131
1993.11.16～11.17	海洋と固体地球の研究——TOPEX/POSEIDON海面高度計データの利用	今脇資郎	60
1993.11.18～11.19	海嶺衝突と地質的影響	平朝彦	96
1993.11.24～11.25	栽培漁業の課題と展望——種苗放流事業の進展を防げる原因と解決手法	松宮義晴	269
1993.12.21	黒潮・親潮変動に対する浮魚資源の応答過程——魚種交替の契機を探る	中田英昭	50
1994. 1.10～1.11	自然環境下でのバクテリアの増殖とサバイバル——From log to stationary phase	片山葉子	63
1994. 1.13～1.14	わが国における古海洋学研究の発展	大場忠道	112
1994. 1.17～1.18	海洋観測国際共同研究計画 (GOOS) ——その成果と展望	平啓介	70
1994. 1.24～1.25	深海生態系と表層形態の相互作用——GLOBECとJGOFsの接点	川口弘一	84
1994. 1.26	黒潮沿岸域の流動と海水交換・魚卵稚仔輸送	松山優治	41
1994. 2.14～2.15	炭酸塩の堆積相、生物相、化学組成と環境変動	松本良	35
1994. 3.11	ガスハイドレートBSRの実態と地球化学的意義	徳山英一	100
1994. 6.29～7. 1	西太平洋大気海洋相互作用 (J-COARE)	住明正	53
1994. 9. 5	カジキ類の分類・生態・資源・漁業	中村泉	55
1994. 9.29	海水中の微量元素の地球化学	野崎義行	40
1994.10. 3	海中無人調査計測器	前田久明	55
1994.11. 1～11. 2	砂浜海岸の生態系と物理環境	荻野静也	153
1994.11. 7～11. 8	海洋観測国際共同研究計画 (GOOS)	平啓介	76
1994.11.10～11.11	衛星高度計による海洋と固体地球の研究	福田洋一	56
1994.11.15～11.16	陸橋とヒトと生物の渡来	木村政昭	98
1994.11.17～11.18	魚類の成育・適応機能と遺伝子	竹井祥郎	173
1994.12. 5	GLOBEC：気候と海洋生態系の変動——既往資料解析を中心に	杉本隆成	49
1994.12. 6	北太平洋亜寒帯水域および移行水域の低次生産とそのモデリング	岸道郎	45
1994.12. 7～12.8	漁業生態系モデルによる水産資源評価	松田裕之	156
1994.12.14	東京湾・大阪湾から太平洋への物質フラックス	柳哲雄	25

開催期間	研究集会名称	代表者名	参加人数
1994.12.15～12.16	海産底生無脊椎動物の幼生の親個体群への加入過程	関 口 秀 夫	44
1995. 1.12～ 1.13	カレイ目魚類の変態——その構造と意義	南 卓 志	128
1995. 1.19～ 1.20	干潟の生物群集及び干潟の物質循環と浄化機能	菊 池 泰 二	95
1995. 1.26～ 1.27	古海洋学の大いなる発展	大 場 忠 道	151
1995. 2.20～ 2.21	中央海嶺のダイナミクス	藤 本 博 己	76
1995. 3.24	海底活断層のイメージングとその活動履歴	岡 村 真	40
1995. 5.29～ 5.30	フジツボ類研究の現状と発展	山 口 寿 之	98
1995. 6.29～ 6.30	東海地域・衝突——沈み込み帯のテクトニクス	末 廣 潔	89
1995. 7. 1	炭酸塩の地球化学——炭酸塩の多形形成から生物作用まで	一 國 雅 巳	53
1995.10.16	海中無人調査計測機シンポジウム	浦 環	178
1995.11. 3	沿岸生態系の保護と修復	向 井 宏	82
1995.11. 6～11. 7	「海洋観測国際共同研究計画（GOOS）」における海洋測定システムの開発と設計	杉ノ原 伸 夫	66
1995.11. 7～11. 8	北太平洋の低次生産環境変動の定期航路船によるモニタリング	木 村 伸 吾	56
1995.11.21～11.22	バイオミネラリゼーション——反応過程の解析と有機マトリックス研究	長 澤 寛 道	111
1995.11.27～11.28	板鰐類の分類・生態・資源に関する研究	田 中 彰	128
1995.11.29	マイクロデータロガー利用による動物行動研究	内 藤 靖 彦	41
1995.11.30	通し回遊現象	塚 本 勝 巳	64
1995.12. 1	地球規模の海洋生態系変動（GLOBEC）地球環境変化への応答過程モデル化にむけて	中 田 英 昭	43
1995.12. 7～12. 8	漁業から独立した資源評価手法——海洋生物個体群生態研究法の進展を目指して	白木原 國 雄	178
1995.12.13～12.14	海面高度計データの海洋・個体地球研究への応用	久保田 雅 久	176
1996. 1.16～ 1.17	古海洋学の現状と将来——我々は何をなすべきか	小 泉 格	135
1996. 2. 5～ 2. 7	中央海嶺研究——最近の成果と今後の計画	藤 岡 換 太郎	121
1996. 2.20～ 2.21	天然ガスハイドレート——深海掘削のODP Leg164の成果と国内研究開発の現状	奥 田 義 久	140
1996. 2.22～ 2.23	南大洋の生物生産過程と物質循環過程	川 口 弘 一	46
1996. 2.26	海洋同位体地球化学の展望	天 川 裕 史	31
1996. 7. 8～ 7. 9	21世紀地球化学への挑戦——深海掘削の新たな展開	平 朝 彦	171
1996. 9.19～ 9.20	梅雨末期のメンスケール雲システムと集中豪雨	木 村 龍 治	47
1996.10.21	海中無人調査計測機シンポジウム	浦 環	178
1996.11. 5	人工衛星による水色リモートセンシングを活用した海洋研	才 野 敏 郎	68
1996.11.12～11.13	動物の変態——現象とその分子機構	渡 邊 俊 樹	70
1996.11.19	地下水挙動の長期予測の可能性——その現状と展望	徳 永 朋 祥	50
1996.11.26～11.27	大気・海洋変動に伴う地球ダイナミクス変動	大 江 昌 嗣	65
1996.11.28	海洋生態系のダイナミクスと計測手法	青 木 一 郎	59
1996.11.29	地球規模の海洋生態系変動（GLOBEC）——暖水塊及び黒潮親潮移行域の生物生産と環境	遠 藤 宣 成	34
1996.12. 2	地球規模の海洋生態系変動（GLOBEC）——小型魚類の資源変動機構	和 田 時 夫	42
1996.12. 5～12. 6	南大洋の生物生産過程と物質循環過程（SO-GLOBEC, J GOFS）	川 口 弘 一	27
1996.12. 5～12. 6	資源管理の数理的研究の展開	原 田 泰 志	164
1996.12. 9～12.10	世界海洋観測システム設計のための研究会	川 辺 正 樹	97
1996.12.12～12.13	再放流と投棄魚の科学——資源・漁業管理における諸問題	二 平 章	228
1997. 1.10	安定同位体による海洋生物研究の展望	南 川 雅 男	50
1997. 1.13～ 1.14	環境変動の共鳴箱としての湖沼・内湾堆積物	鳥 居 雅 之	98
1997. 2.27～ 2.28	炭素塩の同位体化学	松 田 博 貴	95
1997. 5. 8～ 5. 9	水産科学と海洋科学	塚 本 勝 巳	164
1997. 5.21～ 5.22	ヒザラガイの生物学	大 越 健 嗣	136

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
1997. 5.30	魚類の成育・適応機能と遺伝子	川内浩司	73
1997. 6.26 ~ 6.27	原索動物の最新生物学と研究基盤の整備	窪川かおる	110
1997. 9.16	外洋低次生産系の動的構造と栄養塩変動に対する応答	鈴木 款	34
1997. 9.29	海中無人調査計測機シンポジウム	浦 環	213
1997.11.11 ~ 11.12	海面高度計データを基にした海洋と固体地球の研究	今脇資郎	70
1997.11.13 ~ 11.14	海洋観測国際共同研究計画 (GOOS)——研究成果およびその総括	日比谷紀之	86
1997.11.15 ~ 11.16	魚類の環境適応	岩田宗彦	175
1997.11.19	底魚群集の構造と機能を探る	堀川博史	66
1997.11.20 ~ 11.21	魚類の変態機構と生残への適応	沖山宗雄	152
1997.12. 2	海鳥海獣とその餌生物との多様なスケールにおける相互作用	綿貫 豊	47
1997.12. 9 ~ 12.10	Sediment-Water interfaceの動態に関する研究——相模湾を例として	北里 洋	46
1997.12.11 ~ 12.12	21世紀水産資源科学への挑戦——資源保全へ向けての新たな展開	松宮義晴	214
1997.12.17	白亜紀以降の気候変動——No.3ケイ素循環	中森 亨	21
1998. 1. 8 ~ 1. 9	気候のレジーム・シフトに対する海洋生態系の応答	杉本隆成	54
1998. 2.24	沿岸油濁の生態系への負荷とその影響	大和田 紘一	86
1998. 3. 5 ~ 3. 6	炭酸塩の希土類元素地球化学	相沢 省一	62
1998. 3. 9	わが国における鯨類研究の最近の動向と今後の展開	吉岡 基	125
1998. 3.25 ~ 3.27	KAIKO-TOKAI国際シンポジウム	徳山英一	302
1998. 5.14 ~ 5.15	黒潮親潮移行域の低次生産機構——白鳳丸による1997年秋の観測成果を中心に	遠藤宣成	100
1998. 8. 3	科学潜水による海洋生物の観測と行動記録解析	金本自由生	30
1998.10. 6 ~ 10. 7	大陸形成の現行過程と地球物理循環	徳山英一	100
1998.10.26	第2回VNC研究会	木暮一啓	80
1998.11. 4 ~ 11. 5	沿岸海洋環境の変化と生態系の変化	古谷 研	30
1998.11. 6	縁辺海観測国際協同研究計画	平 啓介	70
1998.11.19 ~ 11.20	板鰓類研究における近年の動向	谷内 透	50
1998.11.24 ~ 11.25	ウナギのライフサイクルの解明と制御	塚本勝巳	40
1998.11.26	黒潮・親潮移行域における浮魚類の分布・生態と海洋環境	渡邊良朗	60
1998.12. 9 ~ 12.10	新海洋秩序時代における水産資源の保全と管理	立川賢一	100
1998.12.11	水産学の空白領域	清野聡子	40
1998.12.14 ~ 12.15	海洋生物におけるバイオミネラル化の分子生物学	都木靖彰	50
1998.12.17 ~ 12.18	古海洋学	岡田尚武	100
1998.12.21	黒潮前線の変動に伴う外洋-沿岸相互作用	中田英昭	50
1999. 1.26 ~ 1.27	生物と映像の現状と未来	窪川かおる	100
1999. 2. 5	船舶を用いた海洋大気観測の現状と将来	植松光夫	30
1999. 3. 2 ~ 3. 3	分子海洋学——分子生態学と海洋学の接点	小島茂明	80
1999. 3. 7	海洋物質循環ダイナミクス	野崎義行	50
1999. 3. 9 ~ 3.10	北部北太平洋における生元素循環の特性	小池勲夫	50
1999. 3.18 ~ 3.19	活動的海洋底から海洋への熱・物質フラックス評価	石橋純一郎	50
1999. 5.13 ~ 5.14	軟体動物の最近の動向と将来	斎藤 寛	134
1999. 6.16	地下生物圏シンポジウム	長沼 毅	56
1999. 9. 9 ~ 9.10	多獲性魚類の加入を巡るBottom upとTop down制御	杉本隆成	81
1999. 9.13 ~ 9.14	ウナギ資源の管理状況と保全対象	立川賢一	256
1999. 9.22	森と海の関わり——陸所生態系の内容に対する沿岸生態系の応答	向井 宏	57
1999.10.18	第24回海中海底工学フォーラム	浦 環	180
1999.11. 1	第3回VNC研究会	木暮一啓	60
1999.11.11 ~ 11.12	縁辺海における海洋環境モニタリング	川辺正樹	65

開催期間	研究集会名称	代表者名	参加人数
1999.11.24～11.25	海面変動と遺跡・文明	木村政昭	123
1999.11.29～11.30	中央海嶺研究ワークショップ	木村政昭	63
1999.12. 8	生態学および水産学における統計的方法の新しい展開	粕谷英一	89
2000. 1.11～ 1.21	古海洋学	岡田尚武	167
2000. 3.13	マイクロブ堆積物から見た地球環境と生物進化	松本良	45
2000.10.10	第26回海中海底工学フォーラム	浦環	215
2000.10.27	海洋生物の生理機能の比較分子生物学	浦野明央	36
2000.11. 9～11.10	生体鉱物の形成機構に関する研究集会	佐俣哲郎	76
2000.11.16～11.17	縁辺海モニタリング	平啓介	70
2000.11.16～11.17	ニシン科魚類の繁殖生態と資源変動	渡邊良朗	97
2000.11.21～11.22	魚類神経科学研究の現状と展望	植松一真	91
2000.11.27	第4回VNC研究会	木暮一啓	70
2000.11.28～11.29	地球流体における渦の動態と力学	和方吉信	82
2000.12. 4～12. 5	海洋における窒素循環——その21世紀の海洋学における展望	南川雅男	56
2000.12. 7～12. 8	個体群管理の最前線＝漁業管理、害虫防除、野生動物管理を貫く理論と実践	松田裕之	104
2000.12. 8～12. 9	溪流漁の資源管理：現在・過去・未来	原田泰志	195
2000.12.14～12.15	板鰓類の系統・分類および生態・生理	田中彰	134
2000.12.19～12.20	動物プランクトンの採集・計測法と浅海域海底表層モニタリング法の現状と課題	寺崎誠	43
2000.12.22～12.23	海洋生命系のダイナミクス	塚本勝巳	204
2001. 1.11～ 1.12	2000年度古海洋学シンポジウム	高橋孝三	174
2001. 1.15～ 1.16	海洋生物生産の加速による炭素固定と大気との相互作用	中山英一郎	71
2001. 2.15	生物学と映像・画像技術の現状と未来——その2	窪川かおる	40
2001. 2.20～ 2.21	海底地下水湧出	谷口真人	73
2001. 3. 8	日本海溝海溝軸の地質学、生物学、地球化学——学術的研究の推進のための研究集会	小島茂明	27
2001. 3.13～ 3.14	海洋の生物地球化学的物質循環研究における環境放射性核種の有用性	鈴木款	18
2001. 3.16～ 3.17	黒潮の生物輸送と生産機能	小林雅人	56
2001. 7.23～ 7.24	黒潮および黒潮周辺域の浮魚資源変動とその計測・モデリング	小松輝久	68
2001.10. 4～10. 5	森と海の相互作用	向井宏	88
2001.10.15	第28回海中海底工学フォーラム	浦環	204
2001.11. 6～11. 7	Sulu海および周辺海域の生物多様性と物質循環	西田周平	87
2001.11. 8～11. 9	日本周辺縁辺海の海洋環境	道田豊	88
2001.11.15～11.16	鉄散布実験による海洋生態系と大気組成への影響	植松光夫	115
2001.12. 6	湖沼における遊漁と資源管理	松石隆	58
2001.12.10～12.11	黒潮の生物輸送と生産機能	杉本隆成	93
2001.12.12～12.13	アワビ類資源の現状と展望	河村知彦	174
2002. 1.10～ 1.11	古海洋学シンポジウム	高橋孝三	209
2002. 2.25	第5回VNC研究会——生きているのに培養できない細菌の生理状態についての研究会	木暮一啓	85
2002. 6.26～ 6.27	気候-海洋-海洋生態系のレジーム・シフトの実態とメカニズム解明へのアプローチ	稲掛伝三	156
2002. 6.27～ 6.28	南太平洋における物質循環	野崎義行	88
2002. 8.22～ 8.23	海洋生物の変動——自然変動のしくみ、人間活動のインパクト、変動する資源の管理	渡邊良朗	67
2002.10.21	第30回海中海底工学フォーラム	浦環	224
2002.11. 7～11. 8	シンポジウム 縁辺海の海洋環境モニタリング	藤尾伸三	74
2002.11. 8	沿岸性小型鯨類スナメリの生態と保全	白木原美紀	87

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
2002.11.21 ~ 11.22	内水面における魚類の移植・放流と資源管理	立川 賢一	186
2002.12. 5 ~ 12. 6	板鰓類研究の展望	田中 彰	106
2002.12.19	生物の移動・回遊	塚本 勝巳	123
2002.12.25 ~ 12.26	地球流体における対流——その動態・構造と力学	松田 佳久	80
2003. 1. 9 ~ 1.10	2002年度古海洋学シンポジウム	尾田 太良	200
2003. 1.23 ~ 1.24	海洋発光生物研究の現状と展望	和田 実	113
2003. 2.27 ~ 2.28	背弧海盆・島弧・海溝系の発達過程——フィリピン海を中心に	石井 輝秋	70
2003. 3.26	海洋生物資源変動に係わる環境研究の今後の課題——気候変動・人間活動・地球温暖化の影響を中心に問題点を探る	杉本 隆成	25
2003. 3. 4 ~ 3. 5	動物個体数変動様式の南北差	渡邊 良朗	142
2003.10.20	第32回海中海底工学フォーラム	浦 環	218
2003.11. 6 ~ 11. 7	Sulu海および周辺海域の生物多様性と物質循環	西田 周平	91
2003.11.18 ~ 11.19	海洋・大気間の物質相互作用計画 (SOLAS) の立案	植松 光夫	50
2003.11.20 ~ 11.21	藻類に見る陸上職物の基本的性質と藻類の活用に見る機構解明へのアプローチ——連続的形質を解剖する	三室 守	60
2003.11.26	多魚種資源管理の諸問題	白木原 國雄	150
2003.11.27 ~ 11.28	生態系保全と水産資源の持続的管理——可能性と展望	帰山 雅秀	132
2003.12. 2 ~ 12. 3	流れ藻の分布と生態	小松 輝久	73
2003.12.11 ~ 12.12	海洋GISと空間解析——そのサイエンスと未来	齋藤 誠一	120
2004. 1. 8 ~ 1. 9	古海洋学シンポジウム	尾田 太良	130
2004. 7.29 ~ 7.30	ウナギの資金と保全	塚本 勝巳	191
2004. 9. 2 ~ 9. 3	海洋の微量元素・同位体研究の最新動向と将来展望	蒲生 俊敬	42
2004.10.18	第34回海中海底工学フォーラム	浦 環	225
2004.11. 4	野生生物資源の持続的利用と予防原則	松石 隆	72
2004.11. 5	順応的管理と理論と実践	勝川 俊雄	49
2004.11.15 ~ 11.16	大気・海洋間の生物地球化学的循環過程 (SOLAS)	津田 敦	72
2004.12. 2	地球規模海洋生態系変動研究 (GLOBEC) ——海洋生態系の総合診断と将来予測	桜井 泰憲	50
2004.12.13 ~ 12.14	境界動物の生物学	森沢 正昭	77
2004.12.17 ~ 12.18	地球流体における渦の構造、動態と力学	和方 吉信	74
2004.12.20 ~ 12.21	ホンダワラ類の分布と生態	鰐坂 哲朗	57
2005. 1. 8 ~ 1. 9	2004年度古海洋学シンポジウム	長谷川 四郎	156
2005. 1.20	南海トラフ地震発生帯の深海掘削	芦 寿一郎	62
2005. 2.15 ~ 2.16	板鰓類研究の現状と将来	田中 彰	127
2005. 3. 7 ~ 3. 8	東北日本と伊豆小笠原弧の地殻——マントル構造とマグマ——サブダクションファクトリーにおける物質循環解明に向けて	石井 輝秋	170
2005. 7.22	海洋生物地球化学と生態系研究の統合研究に向けて	齋藤 宏明	31
2005.10. 5 ~ 10. 6	非静力学数値モデルの現状と将来展望	岩崎 俊樹	146
2005.10.17 ~ 10.18	西部北太平洋における鉄散布実験 (SEEDS II) に関する国際ワークショップ	津田 敦	39
2005.10.28	第36回海中海底工学フォーラム	浦 環	157
2005.11.10 ~ 11.11	低水準期にある浮魚資源の管理	桜本 和美	157
2005.12. 5 ~ 12. 6	水生生物研究機関としての水族館——その研究資源活用の可能性	猿渡 敏郎	222
2005.12. 9	海洋生態系動態研究の将来展望	池田 勉	32
2006. 1.11	海産藻類の光合成系と生産性の再評価	三室 守	36
2006. 1.12 ~ 1.13	2005年度古海洋学シンポジウム	安田 尚登	106
2006. 1.26 ~ 1.27	太平洋および南極海の微量元素・同位体と生物地球化学サイクル (GEOTRACES計画)	蒲生 俊敬	87
2006. 2. 9 ~ 2.10	流れ藻研究最前線	小松 輝久	41

開催期間	研究集会名称	代表者名	参加人数
2006. 7. 6～ 7. 7	鯨骨生物群集研究の最前線——海底に沈んだ鯨が育む生態系	藤原 義 弘	146
2006. 9.26～ 9.27	ウナギ資源の現状と保全	塚本 勝 巳	175
2006.10.27	第38回海中海底工学フォーラム	浦 環	179
2006.11. 6～ 11. 7	全海洋動物プランクトンセンサスワークショップ	西田 周 平	79
2006.11. 9～ 11.10	中央海嶺研究のグローバルな展開 InterRidge-Japan 研究発表会	沖野 郷 子	102
2006.11.22	漁業管理におけるリスク評価と合意形成のための社会経済学的アプローチ	松田 裕 之	104
2006.11.29	地球規模海洋生態系変動研究 (GLOBEC) —— 温暖化を軸とする海洋生物資源変動のシナリオ	桜井 泰 憲	86
2006.11.30～ 12. 1	軟骨魚類を探る	田中 彰	189
2006.12. 7～ 12. 8	浅海域資源の管理と増殖の現状と課題	渡邊 良 朗	178
2006.12.18～ 12.19	北太平洋の生態学的および生物地球化学的特徴	齊藤 宏 明	123
2007. 1.12～ 1.13	2006年度古海洋学シンポジウム	安田 尚 登	167
2007. 1.25～ 1.26	脊索動物の進化と脊椎動物の起源	窪川 かおる	128
2007. 2.19～ 2.20	海洋プレートと島弧の深部構造——IODP超深度掘削へ向けて	石井 輝 秋	119
2007. 3.27～ 3.28	地球流体における波動と対流の学力	松田 佳 久	67
2007. 6.11～ 6.12	マアジ仔稚魚の初期生態と東シナ海から日本沿岸への輸送機構	高柳 和 史	113
2007. 6.21～ 6.22	バイオミネラリゼーションと石灰化——遺伝子から地球環境まで	川幡 穂 高	105
2007. 6.25	温室地球における生命と環境の共進化——酸化還元境界の変動と生物進化	北里 洋	25
2007. 8. 8	南海トラフ巨大地震発生帯の掘削科学 (IODP)	芦 寿一郎	78
2007. 8.23～ 8.24	アワビ類栽培漁業の検証と今後の展望	河村 知 彦	165
2007.10.26	第40回海中海底工学フォーラム	浦 環	262
2007.10.30～ 10.31	海底拡大系の総合研究	島 伸 和	124
2007.11.15～ 11.16	魚類の適応と進化の統合生物学——遺伝子から行動まで	安東 宏 徳	115
2007.11.28	シュミレーションを用いた水産資源の管理——不確実性への挑戦	平松 一 彦	77
2007.11.30～ 12. 1	発光生物研究の展開と教育への応用——光がつかなく科学と教育	和田 実	108
2007.12. 6～ 12. 7	環境問題と水族館 その現状、課題、そして将来展望	猿 渡 敏 郎	186
2007.12.20～ 12.21	繁殖特性の時空間的変異が個体群動態へおよび影響	栗田 豊	126
2008. 1. 7～ 1. 8	古海洋学シンポジウム	安田 尚 登	174
2008. 1.17～ 1.18	微量元素と同位体による海洋の生物地球化学的研究 (GEOTRACES計画) ——その最新動向と今後の方針	浦生 俊 敬	85
2008. 1.28	西部北太平洋亜寒帯・亜熱帯域の特徴と相互作用	齊藤 宏 明	69
2008. 3.14	地球規模海洋生態系変動研究 (GLOBEC) 温暖化を軸とする海洋生物資源変動のシナリオ2	岸 道 郎	28
2008. 3.24～ 3.25	海洋リソスフェア学シンポジウム——海洋底深部構造と進化過程解明に向けて	阿部 なつ江	58
2008. 3.25	選択的漁獲に対する海洋生物資源の進化的対応に関する研究	渡邊 良 朗	14
2008. 5.22～ 5.23	潮汐混合とオホーツク海・ベーリング海の物理・化学・生物過程	安田 一 郎	62
2008. 6.13	生理、行動、分子から見た海棲哺乳類の生物学——最近の話題から	村山 司	101
2008. 6.19～ 6.20	バイオミネラリゼーションと石灰化——遺伝子から地球環境まで	川幡 穂 高	95
2008. 6.25～ 6.26	駿河湾・相模湾の生態系に対する気象と黒潮変動の影響	杉本 隆 成	98
2008. 7.31	太平洋の海洋循環と力学過程	川辺 正 樹	37
2008. 8. 4	水塊構造の時空間変動と高頻度連続観測による親潮生態系の動態解明	小針 統	31
2008.10.10	第42回海中海底工学フォーラム	浦 環	193
2008.10.30～ 10.31	InterRidge-Japan研究集会 海底拡大系の総合研究——海底拡大系における海洋地殻内流体	石橋 純一郎	113
2008.11.19	海と畑と森のDNA多型研究	猿 渡 敏 郎	69
2008.11.20～ 11.21	我が国における刺胞動物研究	三宅 裕 志	185
2008.12. 1	ゾーニング——使い分けや棲み分けによる漁場・資源管理	原田 泰 志	44
2008.12.11～ 12.12	亜熱帯海洋学の最前線	津田 敦	62

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
2008.12.11 ~ 12.12	板鰓類の魅力と多様性	田中 彰	186
2009. 1. 8 ~ 1. 9	古海洋シンポジウム	佐藤 時幸	168
2009. 1.22 ~ 1.23	「微量元素海洋学」事始——海洋の微量元素・同位体研究の動向と今後の展望 (GEOTRACES計画)	蒲生 俊敬	97
2009. 3. 5 ~ 3. 6	地球流体における構造の組織化とパターン形成の力学	和方 吉信	51
2009. 3.16	ポスト GLOBEC をどのように展開するか	桜井 泰憲	23
2009. 3.24	藻場研究の今——分布・生態から磯焼け対策・利用まで	小松 輝久	43
2009. 4.23 ~ 4.24	バイオミネラリゼーションと石灰化——遺伝子から地球環境まで	鈴木 淳	114
2009. 5.21	DNA情報にもとづく種査定技術とその応用	町田 龍二	41
2009. 6. 4 ~ 6. 5	北太平洋亜熱帯モード水の物理・化学・生物過程	岡 英太郎	90
2009. 6.29 ~ 6.30	微量元素・同位体を用いた海洋の生物地球化学研究の最新動向と展望	小畑 元	67
2009.10. 7	掘削科学および関連分野の現状と将来	川幡 穂高	62
2009.10. 9	第44回海中海底工学フォーラム	浦 環	277
2009.10.29 ~ 10.30	海底拡大系の総合研究 —— InterRidge Japan 研究会 —— 海底熱水が繋ぐ地圏・水圏・生命圏	熊谷 英憲	104
2009.11. 9 ~ 11.10	水生生物の異時性に関する研究 —— 現状の把握と今後の展望	猿渡 敏郎	43
2009.11.20	海底地盤変動学のスズメ——地形学・地質学・地盤工学からのアプローチ	川村 喜一郎	64
2009.11.25	水産資源管理における再生産関係の利用の現状と問題点——理論的・実用的立場から	木所 英昭	50
2009.11.26 ~ 11.27	1970年代の黒潮親潮域において海洋生態系のレジームシフトはいつおこったのか——フンボルト海流域との比較	渡邊 良朗	76
2009.12. 7 ~ 12. 8	水族館における水生生物研究と教育——現状と展望	猿渡 敏郎	175
2009.12.11 ~ 12.12	白鳳丸航海KH-08-2 データシンセシス	津田 敦	75
2009.12.21 ~ 12.22	新しい海洋区分の創設に向けた生物地球化学と生態学の総合研究	齊藤 宏明	88
2010. 1. 5 ~ 1. 6	沿岸海洋生物の広域動態研究の最前線	仲岡 雅裕	92
2010. 1. 7 ~ 1. 8	古海洋学シンポジウム	佐藤 時幸	144
2010. 1.14	pHからみた地球環境——酸性からアルカリ性までの水と生物地球化学	井上 麻夕里	23
2010. 3.23	東シナ海を主としたガラモ場と流れ藻の分布と生態	青木 優和	21

●海洋研究所 (大槌) [1990.4 ~ 2010.3]

\*『東京大学海洋研究所30年史』未掲載の1990、1991年度のデータも含めた

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
1990. 9.25 ~ 9.26	北日本の異常気象——日本海豪雪を中心に	浅井 富雄	114
1990. 9.26 ~ 9.27	北西太平洋の海洋循環と混合水域の海況変動	力石 国男	51
1991. 7. 3 ~ 7. 4	生物の光信号伝達機構の研究における海藻の利用	渡辺 正勝	23
1991. 9.24 ~ 9.25	北日本の異常気象——季節変化の不規則性を中心として	木村 龍治	34
1991. 9.26 ~ 9.27	北西太平洋の海洋循環と混合水域の海況変動	力石 国男	38
1991.10.22 ~ 10.23	フジツボ類生態、生物地理、防除に関する研究会	山口 寿之	41
1992. 3.10 ~ 3.11	大槌湾及び隣接海域における底性動物群集とその生活史	竹内 一郎	33
1992. 9. 8 ~ 9. 9	北日本の異常気象——大気・海洋・雪氷の相互作用を中心として	力石 国男	33
1992. 9.10 ~ 9.11	亜寒帯循環と北太平洋中層水	友定 彰	46
1993. 3.10 ~ 3.11	大槌湾生態系の構造と機能	平野 禮次郎	50
1993. 3.25 ~ 3.26	海洋微生物の増殖と飢餓	芝 恒男	30
1993. 7.14 ~ 7.16	オキアミ資源研究会	黒田 一紀	117
1993. 7.19 ~ 7.22	通し回遊魚の生活史パターンの解析に基づく資源動態モデルの構築	塚本 勝巳	79
1993.10.12 ~ 10.14	循環要因が大型海藻類の生理活性におよぼす影響に関する研究の現況と今後の課題	齋藤 宗勝	27
1993.11.16 ~ 11.17	ヤマセの研究の過去・現在・未来	川村 宏	72
1993.11.18 ~ 11.19	亜寒帯循環と北太平洋中層水	友定 彰	124
1994. 3.10 ~ 3.11	大槌湾生態系の構造と機能——生物群集、生活史、生産	平野 禮次郎	60

開催期間	研究集会名称	代表者名	参加人数
1994. 8.24	ヤマセ現象を構成する各要素の物理過程	川 村 宏	16
1994. 8.25 ~ 8.26	親潮とその周辺海域の構造と力学	岩 尾 尊 徳	68
1994.10.25 ~ 10.26	端脚類研究の可能性を探る	松 政 正 俊	34
1995. 3. 8 ~ 3.10	三陸沖の生物多様性と環境	宮 崎 信 之	40
1995. 8.22 ~ 8.23	日本の異常気象と大規模大気・海洋循環場	花 輪 公 雄	40
1995. 8.24 ~ 8.25	親潮とその周辺海域の構造と力学	岩 尾 尊 徳	44
1996. 9.24	大槌湾および沿岸における生態学的研究——化学物質による海洋汚染と毒性影響	山 本 義 和	18
1996.11.12 ~ 11.13	北西太平洋を中心とするグローバルな大気海洋相互作用	関 根 義 彦	40
1996.11.14 ~ 11.15	北太平洋西部亜寒帯循環域の変動と力学	川 崎 康 寛	41
1997. 2.21	海藻現存量の調査法の現状と問題点	飯 泉 仁	62
1997.10. 7 ~ 10. 8	寒流域の階層藻場における生物群集構造の制御機構	仲 岡 雅 裕	80
1997.11.17 ~ 11.18	日本周辺の北西太平洋を中心とするグローバルな大気海洋相互作用	関 根 義 彦	40
1997.11.18 ~ 11.19	北太平洋西部亜寒帯循環域の変動と力学	川 崎 康 寛	46
1997.12. 1	海棲哺乳類ストランディングシンポジウム	山 田 格	63
1998. 8.19 ~ 8.20	北太平洋亜寒帯域及びその周辺海域の循環と水塊過程	須 賀 利 雄	40
1998. 8.20 ~ 8.21	北日本の気象と海象	児 玉 安 正	20
1998. 8.24 ~ 8.25	吸収係数測定法ワークショップ	岸 野 元 彰	40
1998.10.15 ~ 10.16	水生生物の異時性に関する研究の現状	猿 渡 敏 郎	15
1999. 1.25 ~ 1.26	海藻現存量調査手法の現状と問題点——リモートセンシング	小 河 久 朗	30
1999. 8.18 ~ 8.19	北日本の気象と海象	児 玉 安 正	88
1999. 8.19 ~ 8.20	北太平洋亜寒帯域およびその周辺海域の循環と水塊過程	須 賀 利 雄	100
2000. 8.23 ~ 8.24	豪雨と海況	渡 辺 明	183
2000. 8.24 ~ 8.25	北太平洋北西部とその縁辺海の水塊変動と循環	岩 坂 直 人	
2000.10.23 ~ 10.25	棘皮動物ウニ類のボディプラン確立過程におけるシグナル伝達	雨 宮 明 南	75
2001. 3. 7 ~ 3. 9	北海道、東北沿岸域の海藻藻場ワークショップ	相 生 啓 子	53
2001. 8.22	北太平洋北西部とその縁辺海の水塊変動と循環	岩 坂 直 人	44
2001. 8.23	降水システムと降水変動	渡 辺 明	42
2002. 2.28	葉上性甲殻類の生態学——課題と展望	岩 崎 望	20
2002. 8.21	北太平洋西部亜寒帯循環系の変動と大気場の関係	三 宅 秀 男	35
2002. 8.22	モンスーンと東アジア（季節サイクルとその変動）	加 藤 内 藏 進	49
2003. 8.20	北太平洋西部亜寒帯循環系の変動と大気場の関係	三 宅 秀 男	44
2003. 8.21 ~ 8.22	モンスーンと東アジア（季節サイクルとその変動）Part II	加 藤 内 藏 進	31
2003.11. 6 ~ 11. 7	藻場生態系の維持と再生に関する水産学および工学分野での研究の現状と今後の展望	難 波 信 由	57
2004. 8.24 ~ 8.25	2003年夏の異常気象に関する研究集会	立 花 義 裕	44
2004. 8.25 ~ 8.26	北太平洋における表層水塊過程	植 原 量 行	52
2004.10.28 ~ 10.29	寒流系コンブ類藻場の保全とコンブ産業の今後——可能性と展望	難 波 信 由	39
2005. 8.31 ~ 9. 1	北太平洋における表層水塊過程	植 原 量 行	77
2005. 9. 1 ~ 9. 2	冷夏猛暑に代表される夏季異常気象研究の統合	立 花 義 裕	79
2005. 9.29 ~ 9.30	台風のライフサイクル——発生から温低化まで	大 淵 濟	60
2006. 8.21 ~ 8.22	オホーツク海の変動とその親潮海域への影響	河 野 時 廣	64
2006. 8.22 ~ 8.23	西部北太平洋海域における大気海洋相互作用	谷 本 陽 一	92
2006. 9.12 ~ 9.13	台風の力学——何が理解されていないのか？	大 淵 濟 (中澤 哲夫)	64
2007. 8.20 ~ 8.22	三陸の海——その魅力と生物学	佐 藤 矩 行	161
2007. 8.29 ~ 8.30	親潮～混合域の観測研究 ——最新手法の成果と利用	河 野 時 廣	69
2007. 8.30 ~ 8.31	西部北太平洋海域における大気海洋相互作用II ——黒潮統流域におけるフラックス観測	根 田 昌 典	79

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
2008. 8.21 ~ 8.22	水圏生態系の生産力に関わる研究の現状と展望	林 崎 健 一	31
2008. 9.10 ~ 9.11	親潮～混合域の観測研究 —— 「親潮」 認識の再確認	宮 尾 孝	54
2008. 9.11 ~ 9.12	中緯度における大気海洋結合に関する数値モデル実験と観測的研究のレビュー	谷 本 陽 一	50
2009. 8.19 ~ 8.20	北海道周辺から本州東方海域の諸現象とその時間的変動	宮 尾 孝	37
2009. 8.20 ~ 8.21	中緯度大気海洋相互作用における時空間スケール階層構造	谷 本 陽 一	47
2009. 8.27 ~ 8.28	水圏生態系の生産力解析——陸と海との連関	林 崎 健 一	30
2009. 8.29 ~ 8.30	大槌湾の生態系保全と持続的な利用を目指した研究の現状と展望	後 藤 友 明	106

●大気海洋研究所（柏）

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
2010. 6.24 ~ 6.25	ウナギ——その生物学と資源保全	塚 本 勝 巳	176
2010.10. 1	第46回海中海底工学フォーラム	浦 環	211
2010.10.19 ~ 10.20	水生生物の性的二型 適応と進化	猿 渡 敏 郎	58
2010.11. 1 ~ 11. 2	南海トラフ海溝型巨大地震の新しい描像——大局的構造と海底面変動の理解	芦 寿一郎	83
2010.11. 4 ~ 11. 5	海底拡大系の総合研究 —— InterRidge Japan 研究会	沖 野 郷 子	92
2010.11.30 ~ 12. 1	潮汐混合とオホーツク海・ベーリング海の物理・化学・生物過程——白鳳丸 KH-09-4航海・おしよ丸・クロモフ2006/2007シンセシス	安 田 一 郎	67
2010.12. 1	漁業情報を用いた水産資源の評価と管理	平 松 一 彦	54
2010.12. 9 ~ 12.10	地球流体における流の変動性と持続性の力学	松 田 佳 久	52
2011. 1. 6 ~ 1. 7	2010年度古海洋シンポジウム	北 里 洋	164
2011. 1.11 ~ 1.12	日本列島周辺に分布するテフラのデータベース整備にむけて	鈴 木 毅 彦	67
2011. 2. 7	中西部太平洋におけるカツオの生態と資源	二 平 章	69
2011. 2.10	バイオミネラリゼーションと石灰化 —— 遺伝子から地球環境まで	鈴 木 淳	46
2011. 2.11	地球生命科学の夢ロードマップ —— 古環境研究から未来環境を予測する	井 上 麻夕里	71
2011. 9. 7 ~ 9. 8	南海トラフ海溝型巨大地震の新しい描像——大局的構造と海底面変動の理解（その2）	朴 進 午	73
2011. 9.13	大気・海洋間の生物地球化学的循環過程のリンケージ——W-PASS最終シンポジウム	津 田 敦	33
2011. 9.16	太平洋クロマグロ資源の有効利用に向けた取り組み	松 田 裕 之	43
2011.10. 3 ~ 10. 4	亜熱帯太平洋のプランクトン生態系および物質循環に関する比較海洋学	古 谷 研	66
2011.10. 3 ~ 10. 4	東シナ海および琉球弧の地史と古環境	松 本 剛	54
2011.10. 4 ~ 10. 6	Workshop on Ocean Mantle Dynamics: from Spreading Center to Subduction Zone	島 伸 和	202
2011.10.14	第48回海中海底工学フォーラム	浦 環	195
2011.11. 1 ~ 11. 2	InterRidge-Japan 研究会 海底拡大系の総合研究	砂 村 倫 成	93
2011.11.18	バイオミネラリゼーションと石灰化——遺伝子から地球環境まで	中 島 礼	55
2011.12. 8 ~ 12. 9	電子標識を用いた高度回遊性魚類の生態研究の現状	北 川 貴 士	51
2011.12.12 ~ 12.13	生物多様性と水族館 研究・展示・啓発活動	猿 渡 敏 郎	193
2011.12.16	混獲と生物多様性保全——非意図的漁獲をいかに軽減するか？	松 下 吉 樹	53
2012. 1. 5 ~ 1. 6	2011年度古海洋シンポジウム	北 里 洋	110
2012. 3. 7	大気海洋学の夢ロードマップ——2050年の未来にむけて	川 幡 穂 高	71
2012. 3. 8 ~ 3. 9	白鳳丸クリーン観測による微量元素・同位体研究の現状と展望 (GEOTRACES 計画)	浦 生 俊 敬	54

●大気海洋研究所（大槌）

開催期間	研究会名称	代表者名	参加人数
2010. 8. 3 ~ 8. 4	北太平洋とその周辺海域における循環と水塊過程	岡 英太郎	50
2010. 8. 4 ~ 8. 5	近年の北日本を中心とする異常気象に関わる大気海洋過程	本 田 明 治	58

開催期間	研究集会名称	代表者名	参加人数
2010. 8.24 ~ 8.25	水圏の生産力解析	林 崎 健 一	28
2010. 9.14 ~ 9.15	日本気象学会 THORPEX 研究連絡会第4回研究集会 太平洋・アジア域に 影響を与える気象	榎 本 剛	24
2011. 8.27	水圏の生産力解析——漁業における三陸の復興に向けて	林 崎 健 一	34
2011. 9.13 ~ 9.14	台風セミナー 発生過程と非軸対称構造の力学	柳 瀬 亘	41
2011.11.11 ~ 11.12	黒潮・親潮統流域の循環と水塊過程	岡 英太郎	63
2011.11.12 ~ 11.13	北日本を中心とした降水・降雪特性に関わる海洋大気陸面過程	本 田 明 治	68